

## 第 114 回コーデックス連絡協議会 資料一覧

資料番号	資料名
1	議事次第
2	委員名簿
3	会場配置図
4-(1)	第 27 回 食品輸出入検査・認証制度部会（CCFICS）議題
4-(2)	第 27 回 食品輸出入検査・認証制度部会（CCFICS）概要
5-(1)	第 44 回 栄養・特殊用途食品部会（CCNFSDU）議題
5-(2)	第 44 回 栄養・特殊用途食品部会（CCNFSDU）概要
6-(1)	第 47 回 総会（CAC）仮議題
6-(2)	第 47 回 総会（CAC）主な検討議題

## 第 114 回コーデックス連絡協議会

日時：令和 6 年 11 月 7 日（木）

13:30～15:10

場所：農林水産省共用第 2 会議室  
(web 併催)

### 議 事 次 第

#### 1. 議題

##### ① 最近コーデックス委員会で検討された議題について

・ 第 27 回 食品輸出入検査・認証制度部会（CCFICS）

・ 第 44 回 栄養・特殊用途食品部会（CCNFSDU）

##### ① 今後の活動について

・ 第 47 回 総会（CAC）

#### 2. その他

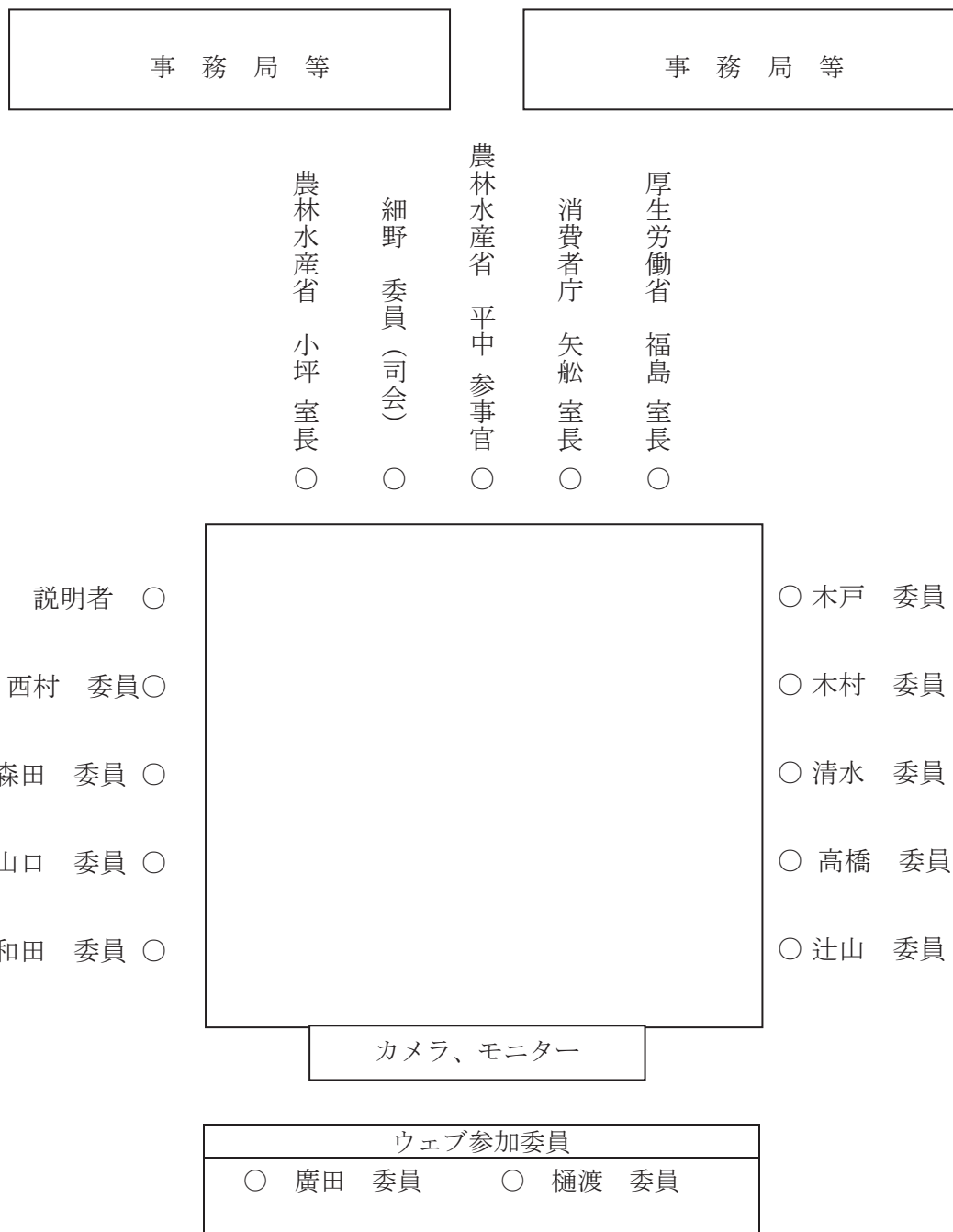
## コーデックス連絡協議会委員

(敬称略 50 音順)

あきやま 磯山	ひろし 浩	星薬科大学 薬学部 薬品分析化学研究室 教授
きど 木戸	けいし 啓之	一般社団法人 日本食品添加物協会 常務理事
きむら 木村	たまよ たま代	主婦連合会 国際規格化推進マネージャー
くまがい 熊谷	ひとみ 日登美	日本大学 生物資源科学部 食品開発学科 教授
しみず 清水	たかし 隆司	一般社団法人 J ミルク 国際委員会事務局 事務局長
たかはし 高橋	ゆうこ 裕子	一般財団法人 消費科学センター 企画運営委員
つじやま 辻山	やよい 弥生	公益財団法人 日本乳業技術協会 業務執行理事
つるみ 鶴身	かずひこ 和彦	公益社団法人 日本食品衛生協会 公益事業部長
にしむら 西村	りょう 亮	全国農業協同組合連合会 法務・リスク管理統括部 食品品質・表示管理課 課長
ひろた 廣田	ひろこ 浩子	一般社団法人 全国消費者団体連絡会 政策スタッフ
ひわたし 樋渡	ゆき 由岐	公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 食生活委員会 委員
ほその 細野	ひでかず 秀和	サントリーホールディングス株式会社 グループ品質本部 品質保証推進部 専任部長
もりた 森田	まき 満樹	一般社団法人 Food Communication Compass 代表
やまぐち 山口	りゅうじ 隆司	一般財団法人 食品産業センター 海外室長
わだ 和田	まさひろ 政裕	城西大学 薬学部 医療栄養学科 教授

## 第 114 回コーデックス連絡協議会 会場配置図

令和 6 年 11 月 7 日（木）13:30～15:10  
農林水産省共用第 2 会議室（web 併催）



FAO/WHO 合同食品規格計画  
第 27 回食品輸出入検査・認証制度部会（CCFICS）

日時：2024 年 9 月 16 日（月）～20 日（金）

場所：ケアンズ（議長国：オーストラリア）

議題

1	議題の採択
2	コーデックス総会及びその他の部会からの付託事項
3	CCFICS の作業に係る FAO、WHO 及び他の国際政府機関の活動に関する報告
4	同等性に係るガイドラインの統合原案（ステップ 4）
5	食品偽装の防止及び管理に関するガイドライン原案（ステップ 4）
6	食品検査・認証制度におけるツールとしてのトレーサビリティ／製品トレーシングの原則（CXG60-2006）の改訂及び更新原案（ステップ 4）
7	輸入食品の却下における不服申し立てメカニズムに関する討議文書
8	衛生要件の標準化に関する討議文書
9	新たな世界規模の課題に関するリストの見直し及び更新
10	その他の事項
11	次回の開催日時及び開催地

FAO/WHO 合同食品規格計画  
第 27 回食品輸出入検査・認証制度部会（CCFICS）報告書

1. 日時及び場所

日時：2024 年 9 月 16 日（月）から 20 日（金）

場所：ケアンズ（オーストラリア）

（オンラインとのハイブリッド会合形式にて開催）

2. 参加国及び国際機関

70 加盟国、1 加盟機関（EU）、11 オブザーバー機関

3. 出席者

厚生労働省 健康・生活衛生局

食品監視安全課 輸入食品安全対策室 輸出国衛生専門官 村上 聡子

同 監視調整係長 山崎 勇貴

農林水産省 消費・安全局 食品安全政策課 国際基準室 係員 吉持 賛花

輸出・国際局 規制対策グループ 係員 奥谷 友里加

4. 概要

議題 1 議題の採択

議題は提案されたものに加え、議題 10（その他の事項）において、時間の許す限り「規制枠組みにおける遠隔監査及び監視利用に関する原則及びガイドライン（CXG 102-2023）」の改正案（議場配布資料（CRD 05））を検討することで採択された。

議題 2 コーデックス総会及びその他の部会からの付託事項

コーデックス総会及び他の部会からの付託事項について紹介された。

CCFICS の付託事項で参照されている ISO 8402（品質マネジメント・品質保証：用語及び定義）の撤回及び ISO 8402 に代わる ISO 9000:2015（品質マネジメントシステム・基本及び用語）の改訂を考慮して、進行中の ISO 9000 の改訂が完了し次第、CCFICS の付託事項に関連する「quality assurance（品質保証）」の脚注の修正を提案し、承認のために総会（CAC）に送付することに留意した。

議題 3 CCFICS の作業に係る FAO、WHO 及び他の国際政府機関の活動に関する報告

CCFICS の作業に関連する、国際連合食糧農業機関 (FAO)、世界保健機関 (WHO)、国際連合工業開発機構 (UNIDO)、世界貿易機関 (WTO)、規格及び通商開発機構 (STDF) 及び経済協力開発機構 (OECD) の活動について報告がなされた。

FAO からは、FAO/WHO ツールを活用した国の食品管理システム (NFCS) の評価に関するプロジェクトが進行していること、FAO/国際原子力機関 (IAEA) の共同活動における食品偽装に関する進行中の作業があること等、最近の活動が紹介された。

WHO からは、国際食品安全当局ネットワーク (INFOSAN)、世界食品安全の日、STDF に関連する最近の活動等が紹介された。

UNIDO からは電子証明書、任意の第 3 者認証プログラムのパイロットプロジェクト及び遠隔監査及び検証に関する活動、OECD からは国際食品安全における遠隔監査のコスト、利点及び効果に関する調査が紹介された。

#### **議題 4 同等性に係るガイドラインの統合原案 (ステップ 4)**

電子的作業部会の議長国であるニュージーランドから、電子的作業部会及び本会合前日に開催された物理的作業部会での議論を踏まえ更新した統合原案 (CRD 02) について説明がなされ、パラグラフごとに検討された。

##### **[主な議論]**

##### **タイトル**

- ・「specific measure」について、衛生 (SPS) 及び技術的 (TBT) 措置をカバーしていることを明確にするために「sanitary measures, technical regulations」と修正することで合意された。

##### **セクション 1 : 序論**

- ・「specific measure」という用語を「sanitary measures and technical regulations, as appropriate」に置き換えるように修正し、「technical regulations」という用語の意味を明確にするために、「Technical regulations には、技術規制、適合性評価手順または基準が含まれる場合がある」という説明が追加された。

##### **セクション 4 : 定義**

- ・「食品検査認証制度に係る衛生措置の同等性評価に関するガイドライン (CXG 53-2003)」に含まれる「適切な保護水準 (Appropriate level of sanitary protection: ALOP)」の定義を追加する提案については電子的作業部会で引き続き検討する。

- ・「Requirements」について、所要の修正を行い、「measure」、「NFCS objective」、「Sanitary measure」、「Technical measure」については削除することに合意

した。

#### セクション 4：原則

・「F: Demonstration of Equivalence」については輸出入国における双方の義務を明確化するために表題を「F: Demonstration and Recognition of Equivalence」と修正し、記載内容について「輸出国は SPS 措置もしくは TBT 措置、国の食品管理システムもしくはその一部が輸入国の達成目標を満たすことを示さなければならない」を追加することに合意した。

#### セクション 6：イニシャルディスカッション

・パラ 10 と 11 が、それぞれパラ 9 と 12 と類似していることから、パラ 10 と 11 を削除し、パラ 11 の文言を CXG 101-2023 セクション 5.1.1 の冒頭段落の 2 番目の文に置き換えることに合意した。

#### [結論]

直近に採択された「国の食品管理システムの同等性の承認及び維持に関するガイドライン (CXG101-2023)」を基礎としてその他の既存文書の主要なポイントを含めることを検討する。

ステップ 2/3 に戻し、今次会合で議論された点とコメントを踏まえ、ガイドライン原案を改訂することが合意された。

改訂作業は電子的作業部会を設置（議長国：ニュージーランド、共同議長国：ケニア）し、次回第 28 回会合に向けて作業することが合意された。

### 議題 5 食品偽装の防止及び管理に関するガイドライン原案（ステップ 4）

電子的作業部会の議長国である米国から、ガイドライン原案について説明がなされ、セクションごとに検討された。

#### [主な議論]

・前回第 26 回会合において、地理的表示保護制度（Geographic Indication: GI）を含む知的財産（Intellectual Property: IP）に関する記載について、本ガイドラインの対象外にするか議論があった。CCFICS 議長は CAC 及び執行委員会の議長に GI は CCFICS の所掌範囲に含まれるか助言を求めたところ、コーデックス事務局並びに FAO 及び WHO の法務部門にも意見照会した上で、加盟国において検討及び決定されるものであるとの回答があった。IP に関して特に GI を除外すること、コーデックスの所掌外であることを言及した脚注 3 については、ブラジルを中心とした中南米の 8 か国から新たな文言なども提案された（CRD 15）が、検討した結果、以下について合意した。

-脚注 3 は削除する

-本文中パラ 3 の末尾に「Issues related to intellectual property are not



included in this document (知的財産に関連する事項はこの文書には含まない)」を追加する

-GI は IP の一種であるため、GI には言及しない

#### セクション 1：序論／はじめに

・パラ 6 bis について、「anti-food fraud culture」という用語の定義がされておらず混乱を招くことに加えて、パラ 5 と重複する部分を削除する等、一部修正することで合意した。「anti-food fraud culture」の必要性については後段で検討されることとなった。

#### セクション 2：目的／範囲

・本ガイドラインの対象に「feed for food producing animals (食用動物のための飼料)」を含めるかの議論があったが、「may impact human food safety (人の食品安全に影響を与える可能性がある)」を削除し、「including, as appropriate, feed for food producing animals (必要に応じて、食用動物のための飼料を含む)」とすることで合意し、ガイドライン全体で食用動物のための飼料がどのように反映され、参照されているかについて引き続き電子的作業部会で議論することとなった。

・脚注 3 を削除することに合意した。

・パラ 7 bis について、食品偽装の捜査、起訴は本ガイドラインの対象外であることから削除することに合意した。

#### セクション 3：定義

・「Food integrity (食品の清廉性)」及び「Food authenticity (食品の真正性)」を文書中に維持するかどうか意見が分かれたため、引き続き検討する。

#### セクション 4：食品偽装の種類

・「Substitution」については、異なる性質の原料などでも起こり、必ずしも価値の低いものとの置き換えとは限らないが、一方で低いものとの置き換えた場合に問題になることが多いことから、括弧書きで「most often of lower value」と記載することに合意した。

#### セクション 5：原則

・簡素な文章にするための必要な修正をすることに合意した。

#### セクション 6：役割と責務

・パラ 9 c と d に重複があることから統合した。

・パラ 10a を削除し、b. bis と e に重複があることから b. bis について引き続き検討する。

・EU から、セクション 6 の役割と責務、7 の活動について、項目ではなく、「当局」及び「食品事業者 (FB0)」でセクション分けすべきではないか提案が

あり、引き続き検討する。

#### [結論]

本ガイドライン原案をステップ5で予備採択するために CAC47 に送付することが合意された。改訂作業は電子的作業部会を設置（議長国：米国、共同議長国：英国、中国、EU、イラン及びパナマ）し、次回第28回会合に向けて作業することが合意された。

### 議題6 食品検査・認証制度におけるツールとしてのトレーサビリティ／製品トレーシングの原則（CXG60-2006）の改訂及び更新原案（ステップ4）

電子的作業部会の議長国である米国から、改訂文書原案について説明がなされ、セクションごとに検討された。

#### [主な議論]

##### セクション1：序論

- ・必要な修正をすることに合意した。パラ7, 7 bis については時間の制約上、議論されなかった。
- ・「トレーサビリティ、製品トレーシング」については既に認知度が上がっていること、文書中でどちらか一方のみを使用することもないことから繰り返さないこととした。

##### セクション2：目的／範囲

- ・幅広い概念を包含するように、タイトルに「目的」を加えて修正することに合意した。

##### セクション3：定義

- ・Annex I に記載している定義もこのセクションに記載し、必要なものについて引き続き検討する。

##### セクション4：原則

- ・トレーサビリティにより、製品の安全性が向上し、消費者保護が可能となるため、CXG 60-2006 のパラ8を含めることに合意した。
- ・「Legal requirements」のパラ13にある「one step back」及び「one step forward」はトレーサビリティ・製品トレーサビリティの原則であり、セクション4に移動することに同意した。
- ・「Responsibilities」、「Legal Requirements」及び「Good Practice」に関してはさらに検討が必要であるとして、以下のコメントが提供された。
  - － ガイドラインの性質について、活用の際の柔軟性を持たせるため一般的な内容にする必要がある。
  - － 「Legal requirements」で使用される文言は、国内の既存の法的枠組み

または構造を認識した上で検討する必要がある。

- テクノロジーの活用について、各国の能力の多様性を考慮する必要がある、紙ベースのシステムと電子システムの両方に対応できるとするべきである。
- 「原則」は、既存の Codex 文書と同じように一文とその内容の説明の構成にするべきである。

#### [結論]

本改訂文書原案をステップ 2/3 に戻し、今次会合で議論された点とコメントを踏まえ、本改訂文書原案を改訂することが合意された。改訂作業は電子的作業部会を設置（議長国：米国、共同議長国：オーストラリア、エクアドル、ホンジュラス及び英国）し、次回第 28 回会合に向けて作業することが合意された。

### **議題 7 輸入食品の却下における不服申し立てメカニズムに関する討議文書**

インドから、輸入食品の却下における不服申し立てメカニズムに関する新たな作業を提案し、公正な食品貿易を確保するための統一的な不服申し立てメカニズムの必要性等の課題を中心に討議文書及びプロジェクト文書について説明がなされ、議論が進められた。

#### [主な議論]

- ・この作業は、既存の「輸入食品の却下に関する政府間での情報交換のためのガイドライン（CXG 25-1997）」または「食品輸入管理システムに関するガイドライン（CXG 47-2003）」のいずれかの改訂または付属文書とすることで合意した。
- ・却下に対して不服を申し立てることができる利害関係者として「輸出国」を含めて検討することを合意した。
- ・不服申し立てメカニズムだけでなく、CXG 47-2003 に記載されている貨物の措置の見直しの機会についても取り上げることが提案された。
- ・一部の加盟国は、却下後のプロセスよりも却下の予防に重点を置くよう提案した。

#### [結論]

下記が合意された。

- ・輸入食品の却下における不服申し立てメカニズムに関するガイダンスの作成に関する作業を開始することとし、新規作業承認のために CAC47 に送付する。
- ・次回第 28 回会合での検討のために、電子的作業部会（議長国：インド、共

同議長国：ナイジェリア、オーストラリア、チリ及びケニア）を設置し、輸入食品の却下における不服申し立てメカニズムに関するガイダンス案を作成する。

## **議題8 衛生要件の標準化に関する討議文書**

ブラジルから、電子証明の簡素化及び継続使用を目的とする衛生要件の標準化に関する新たな作業を提案した。電子証明に関する課題（要件が一意でない、情報が重複している、コミュニケーションに一貫性と透明性がない等）を中心に CRD13 の討議文書及びプロジェクト文書について説明がなされ、議論が進められた。

### **[主な議論]**

- ・一部の加盟国は、電子証明書の使用へ移行することで通関手続きの簡素化が可能になり、食品の安全性を推進することから、本新規作業を支持した。
- ・内容をより反映するために、タイトルを「Standardization of sanitary requirements（衛生要件の標準化）」から「Guidance on the standardization of the representation of sanitary requirements（衛生要件の表現の標準化に関するガイダンス）」に修正した。

### **[結論]**

下記が合意された。

- ・衛生要件の表現の標準化に関するガイダンスの作成に関する作業を開始することとし、新規作業承認のために CAC47 に送付する。
- ・次回第 28 回会合での検討のために、電子的作業部会（議長国：ブラジル、共同議長国：オーストラリア、スペイン、インド、ケニア及びウガンダ）を設置し、衛生要件の表現の標準化に関するガイダンス案を作成する。

## **議題9 新たな世界規模の課題に関するリストの見直し及び更新**

付属書 A（CCFICS をとりまく新たな世界規模の課題のリスト）が更新され、新たに、食品貿易における施設リストの活用の増加、国の食品管理システム（NFCs）におけるデジタル化への傾向、人工知能（Artificial intelligence: AI）の活用の増加の 3 項目が追加された。

ノルウェーから「施設リストに関する討議文書（CX/FICS 24/27/9 Add. 1）」が提案され、輸入国から施設リストの要求が増える中、項目や様式、デジタル化も含めた運用メカニズム等の調和を図ることの重要性など討議文書及びプロジェクト文書について説明がなされ、議論が進められた。本作業の目的は、この作業によって輸入国による施設リストの要求を増やすことなく、施設リストの

管理の簡素化や負担軽減であることが説明された。

オーストラリアから「国の食品管理システム (NFCS) におけるデジタル化に関する討議文書 (CX/FICS 24/27/9 Add. 2)」が提案され、包括的な枠組みの策定、既存のデジタルに関する国際規格及びガイダンスの特定、定義等のハイレベルの原則を策定することなど討議文書及びプロジェクト文書について説明がなされ、議論が進められた。

#### [主な議論]

- ・付属書 A (CCFICS をとりまく新たな世界規模の課題) にリスト化する議題について、特定された課題の重要性が確認された。

- ・施設リストに関する討議文書については、国の食品管理システム (NFCS) の必要性に対応しており、作業がタイムリーであることから、複数の加盟国は、「食品の貿易のための輸出入国間の情報交換に関する原則及びガイドライン (CXG 89-2016)」の付属文書とすることを支持した。また、事前リスト、製品及び施設リスト、リストそのものの必要性などの側面を考慮に入れることも提案された。

- ・国の食品管理システム (NFCS) におけるデジタル化に関する討議文書については、国の食品管理システム (NFCS) の現在及び将来のニーズに対応しており、作業がタイムリーであることから複数の加盟国は支持を表明した。

#### [結論]

下記が合意された。

- ・付属書 A の管理は会合ごとに、加盟国間で交代しており、次回会合に向け EU がオーストラリアの協力を得て管理することとし、今次会合での議論及びコメントを考慮した更新文書を作成する。

- ・「食品の貿易のための輸出入国間の情報交換に関する原則及びガイドライン (CXG 89-2016)」の改訂に関する作業を開始することとし、新規作業承認のために CAC47 に送付する。次回第 28 回会合での検討のために、電子的作業部会（議長国：ノルウェー、共同議長国：オーストラリア、インド、モロッコ、サウジアラビア及びスペイン）を設置し、施設リストの使用、策定及び運用の調和に関する原則及びガイドラインを含む改訂文書案を作成する。

- ・国の食品管理システム (NFCS) におけるデジタル化の原則に関する作業を開始することとし、新規作業承認のために CAC47 に送付する。次回第 28 回会合での検討のために、電子的作業部会（議長国：オーストラリア、共同議長国：カナダ、ジャマイカ、オランダ及び英国）を設置し、国の食品管理システム (NFCS) におけるデジタル化に関するハイレベルの原則案を作成する。

#### **議題 10 その他の事項**

ノルウェーにより提出された「規制枠組みにおける遠隔監査及び監視利用に関する原則及びガイドライン（CXG 102-2023）」の改訂案（CRD 05）について、時間の制約上、十分な議論はなされなかった。

#### **議題 11 次回の開催日時及び開催地**

次回第 28 回会合は 2026 年 10 月に開催される予定。詳細については、コーデックス事務局と議長国のオーストラリアが調整することとされた。

食品輸出入検査・認証制度部会（CCFICS）の今後の作業

事項	今後のアクション
同等性に係るガイドラインの統合原案	ステップ 2 / 3 電子的作業部会（議長国：ニュージーランド、共同議長国：ケニア）
食品偽装の防止及び管理に関するガイドライン原案	CAC47（ステップ 5） 電子的作業部会（議長国：米国、共同議長国：英国、中国、EU、イラン、パナマ）
食品検査・認証制度におけるツールとしてのトレーサビリティ／製品トレーシングの原則（CXG60-2006）の改訂及び更新原案	ステップ 2 / 3 電子的作業部会（議長国：米国、共同議長国：オーストラリア、エクアドル、ホンジュラス、英国）
輸入食品の却下における不服申し立てメカニズムに関するガイダンスに関するプロジェクト文書	ステップ 1 CAC47（新規作業の提案） 電子的作業部会（議長国：インド、共同議長国：ナイジェリア、オーストラリア、チリ、ケニア）
衛生要件の表現の標準化に関するプロジェクト文書	ステップ 1 CAC47（新規作業の提案） 電子的作業部会（議長国：ブラジル、共同議長国：オーストラリア、スペイン、インド、ケニア、ウガンダ）
食品の貿易のための輸出入国間の情報交換に関する原則及びガイドライン（CXG 89-2016）の改訂に関するプロジェクト文書	ステップ 1 CAC47（新規作業の提案） 電子的作業部会（議長国：ノルウェー、共同議長国：オーストラリア、インド、モロッコ、サウジアラビア、スペイン）
国の食品管理システム（NFCS）におけるデジタル化の原則に関するプロジェクト文書	ステップ 1 CAC47（新規作業の提案） 電子的作業部会（議長国：オーストラリア、共同議長国：カナダ、ジャマイカ、オランダ、英国）

<p>付属書 A (CCFICS をとりまく新たな世界規模の課題) の見直し及び更新</p>	<p>文書管理国：EU (協力：オーストラリア)</p>
--	----------------------------------



# FAO/WHO 合同食品規格計画 第27回食品輸出入検査・認証制度部会

## Codex Committee on Food Import and Export Inspection and Certification Systems (CCFICS)

2024年9月16～20日 豪州(ケアンズ)

### 主な検討議題

1

### 主な議題の検討結果

事項		CCFICS27での ステップ	今後のアクション
議題4	同等性に係るガイドラインの統合原案	ステップ4	➡ ステップ2/3
議題5	食品偽装の防止及び管理に関するガイドライン原案	ステップ4	➡ ステップ5 CAC47(予備採択)
議題6	食品検査・認証制度におけるツールとしてのトレーサビリティ／製品トレーシングの原則(CXG60-2006)の改訂及び更新原案	ステップ4	➡ ステップ2/3
議題7	輸入食品の却下における不服申し立てメカニズムに関するガイダンスに関するプロジェクト文書	-	➡ ステップ1 CAC47(新規作業の提案)
議題8	衛生要件の表現の標準化に関するプロジェクト文書	-	➡ ステップ1 CAC47(新規作業の提案)
議題9	食品の貿易のための輸出入国間の情報交換に関する原則及びガイドライン(CXG 89-2016)の改訂に関するプロジェクト文書	-	➡ ステップ1 CAC47(新規作業の提案)
	国の食品管理システム(NFCS)におけるデジタル化の原則に関するプロジェクト文書	-	➡ ステップ1 CAC47(新規作業の提案)

2

## 議題4

### 同等性に係るガイドラインの統合原案(ステップ4)

#### 主な論点

- ・電子的作業部会の議長国であるニュージーランドから、本部会でこれまでに多数策定された同等性に関するガイドライン及び「同等性」の内容を含む関連文書を統合したガイドラインの統合原案について説明がなされた(会合前日には物理的作業部会も開催)。
- ・統合にあたって、直近に採択された「国の食品管理システムの同等性の承認及び維持に関するガイドライン(CXG101-2023)」の内容が十分に反映されていないとの指摘が多くあった。
- ・本ガイドラインが衛生(SPS)及び技術的(TBT)措置をカバーしていることを明確にするため「specific measure」を「sanitary measures and technical regulations, as appropriate」に置き換えるよう修正し、「Technical regulationsには、技術規制、適合性評価手順または基準が含まれる場合がある」という説明が追加された。

※「同等性(Equivalence)」とは、輸出入国の食品安全に関する措置が異なっている場合でも、同レベルの保護水準を達成する制度を有することが証明された場合には、同等の措置として認める概念。

◇食品輸出入検査及び認証システムにおける同等性協定の策定に関するGL(CXG 34-1995) ⇒ [検査認証の同等性](#)

◇食品検査及び認証制度に係る衛生措置の同等性の判断に関するGL(CXG 53-2003) ⇒ [衛生措置の同等性](#)

◇国の食品管理システムの同等性の承認及び維持に関するGL(CXG 101-2023) ⇒ [NFCシステムの同等性](#)

#### 結論

- ・CXG101-2023を基礎として、その他の既存文書の主要なポイントを含めることを検討する。ステップ2/3に戻し、電子的作業部会を設置し、今次会合で議論された点とコメントを踏まえ、改訂作業を行う。  
(議長国:ニュージーランド、共同議長国:ケニア)

3

## 議題5

### 食品偽装の防止及び管理に関するガイドライン原案(ステップ4)

#### 主な論点

- ・電子的作業部会の議長国である米国から、食品安全当局、関係機関及び食品事業者に対する食品偽装の探知及び管理に関するガイドライン原案について説明がなされた。
- ・知的財産に関して、特に、地理的表示保護制度を除外すること及びコーデックスの所掌外であることを言及した脚注3については削除し、本文中に「Issues related to intellectual property are not included in this document(知的財産に関連する事項はこの文書には含まない)」を追加した。また、GIはIPの一種であるため、GIには言及しないとされた。

※前回会合の議論を踏まえ、CCFICS議長は「地理的表示保護制度(Geographic Indication: GI)を含む知的財産(Intellectual Property: IP)がCCFICSの所掌範囲に含まれるか」、CAC及びCCEXECの議長に助言を求めたところ、コーデックス事務局並びにFAO及びWHOの法務部門にも意見照会した上で、加盟国において検討及び決定されるものであるとの回答があった。

- ・本ガイドラインの対象に食用動物のための飼料を含めるかの議論があったが、「may impact human food safety(人の食品安全に影響を与える可能性がある)」を削除し、「including, as appropriate, feed for food producing animals(必要に応じて、食用動物のための飼料を含む)」とし、引き続き議論することとなった。
- ・食品偽装の捜査、起訴は本ガイドラインの対象外であることから削除する。
- ・定義の「Food integrity(食品の清廉性)」及び「Food authenticity(食品の真正性)」を文書中に維持するかどうか意見が分かれたため、引き続き検討する。

#### 結論

- ・本ガイドライン原案をステップ5で予備採択するためにCAC47に送付し、電子的作業部会を設置し、改訂作業を行う。  
(議長国:米国、共同議長国:英国、中国、EU、イラン及びパナマ)

4

## 議題6

### 食品検査・認証制度におけるツールとしてのトレーサビリティ／製品トレーシングの原則(CXG60-2006)の改訂及び更新原案(ステップ4)

#### 主な論点

- ・電子的作業部会の議長国である米国から、昨今のトレーサビリティシステムの近代化を踏まえた、既存の「食品検査・認証制度におけるツールとしてのトレーサビリティ／製品トレーシングの原則(CXG 60-2006)」の改訂文書について説明がなされた。
- ・現行の原則に加えて、当局がNFCSIにトレーサビリティ若しくは製品トレーシングを導入するか検討するためのガイダンス要素を追加する。
- ・セクション「Responsibilities」、「Legal Requirements」及び「Good Practice」に関してはさらに検討が必要である。
- ガイドラインは活用の際の柔軟性を持たせるため、一般的な内容にする必要がある。
- 「Legal requirements」で使用される文言は、国内の既存の法的枠組みまたは構造を認識した上で検討する。
- テクノロジーの活用について、各国の能力の多様性を考慮する必要がある、紙ベースのシステムと電子システムの両方に対応できるとするべき。
- 「原則」は、既存のCodex文書と同じように一文とその内容の説明の構成にするべき。

#### 結論

- ・本改訂文書原案をステップ2/3に戻し、電子的作業部会を設置し、今次会合で議論された点とコメントを踏まえ、改訂作業を行う。  
(議長国：米国、共同議長国：豪州、エクアドル、ホンジュラス及び英国)

5

## 議題7

### 輸入食品の却下における不服申し立てメカニズムに関する討議文書(新規作業提案)

#### 主な論点

- ・提案国であるインドから、輸入食品の却下における不服申し立てメカニズムに関する新たな作業について、前回会合の指摘を踏まえ、公正な食品貿易を確保するための統一的な不服申し立てメカニズムの必要性等の課題を中心について説明がなされた。
- ・既存の「輸入食品の却下に関する政府間での情報交換のためのガイドライン(CXG 25-1997)」または「食品輸入管理システムに関するガイドライン(CXG 47-2003)」のいずれかの改訂または付属文書とする。
- ・却下に対して不服を申し立てることができる利害関係者として「輸出国」を含めて検討する。
- ・不服申し立てメカニズムだけでなく、CXG 47-2003に記載されている貨物の措置の見直しの機会についても取り上げることが提案された。
- ・一部の加盟国は、却下後のプロセスよりも却下の予防に重点を置くよう提案した。

#### 結論

- ・CCFICSにおいて作業を開始することとし、新規作業承認のためにCAC47に送付する。
- ・電子的作業部会を設置し、輸入食品の却下における不服申し立てメカニズムに関するガイダンス案を作成する。  
(議長国：インド、共同議長国：ナイジェリア、豪州、チリ及びケニア)

6

## 議題8

### 衛生要件の標準化に関する討議文書(新規作業提案)

#### 主な論点

- ・提案国であるブラジルから、輸出入国間でやりとりされている電子証明の簡素化及び継続使用を目的とする衛生要件の標準化に関する新たな作業について、前回会合の指摘を踏まえ、電子証明に関する課題(要件が一意でない、情報が重複している、コミュニケーションに一貫性と透明性がない等)を中心に説明がなされた。
- ・一部の加盟国は、電子証明書の使用へ移行することで通関手続きの簡素化が可能になり、食品の安全性を推進することから支持した。
- ・内容をより反映するために、タイトルを「Guidance on the standardization of the representation of sanitary requirements(衛生要件の表現の標準化に関するガイダンス)」に修正した。

例えば、「本製品は衛生的に取り扱われている」という証明も各国により異なる表現を用いられており、データ負荷となっている。(例)・ *The products were obtained in hygienic conditions;*  
・ *The products were processed in hygienic conditions;*  
・ *The products were packaged in hygienic conditions;*  
・ *The products were packed in hygienic conditions;*  
・ *The products do not contain neither they have been added substance harmful to human health;*

#### 結論

- ・CCFICSにおいて作業を開始することとし、新規作業承認のためにCAC47に送付する。
- ・電子的作業部会を設置し、衛生要件の表現の標準化に関するガイダンス案を作成する。  
(議長国:ブラジル、共同議長国:豪州、スペイン、インド、ケニア及びウガンダ)

7

## 議題9

### 新たな世界規模の課題に関するリストの見直し及び更新

### 施設リストに関する討議文書(新規作業提案)

#### 主な論点

- ・提案国であるノルウェーから、輸入国から施設リストの要求が増える中、項目や様式、デジタル化も含めた運用メカニズム等の調和を図ることの重要性などの説明がなされた。本作業の目的は輸入国による施設リストの要求を増やすことなく、施設リストの管理の簡素化や負担軽減であることが説明された。
- ・国の食品管理システム(NFCS)の必要性に対応しており、作業がタイムリーであることから、複数の加盟国は、「食品の貿易のための輸出入国間の情報交換に関する原則及びガイドライン(CXG 89-2016)」の付属文書とすることを支持した。
- ・事前リスト、製品及び施設リスト、リストそのものの必要性などの側面を考慮に入れることも提案された。

#### 結論

- ・CCFICSにおいて、CXG 89-2016の改訂に関する作業を開始することとし、新規作業承認のためにCAC47に送付する。
- ・電子的作業部会を設置し、施設リストの使用、策定及び運用の調和に関する原則及びガイドラインを含む改訂文書案を作成する。  
(議長国:ノルウェー、共同議長国:豪州、インド、モロッコ、サウジアラビア及びスペイン)

8



## 議題9

新たな世界規模の課題に関するリストの見直し及び更新

### 国の食品管理システム(NFCS)におけるデジタル化に関する討議文書(新規作業提案)

#### 主な論点

- ・提案国である豪州から、国の食品管理システム(NFCS)におけるデジタル化に関して、包括的な枠組みの策定、既存のデジタルに関する国際規格及びガイダンスの特定、定義等のハイレベルの原則を策定することの説明がなされた。
- ・CCFICSの現在及び将来のニーズに対応しており、作業がタイムリーであることから複数の加盟国が支持した。

(既存文書) ◇食品の安全性の緊急事態における情報交換に関する原則及びガイドライン(CXG 19-1995)  
◇輸入食品の却下に関する政府間での情報交換のためのガイドライン(CXG 25-1997)  
◇食品輸出入検査及び認証システムの設計、運用、評価、認定に関するガイドライン(CXG 26-1997)  
◇一般的な公的証明書の設計、作成、発行及び使用に関するガイドライン(CXG38-2001)  
◇食品輸入管理システムに関するガイドライン(CXG 47-2003)  
◇食品の貿易のための輸出入国間での情報交換に関する原則及びガイドライン(CXG 89-2016)  
◇国の食品管理システムの実施状況のモニタリングに関する原則及びガイドライン(CXG 91-2017)  
◇任意の第三者認証スキームの評価及び使用に関する原則及びガイドライン(CXG 93-2021)  
◇規制枠組みにおける遠隔監査及び監視利用に関する原則及びガイドライン(CXG 101-2023)  
◇国の食品管理システムの同等性の承認及び維持に関するガイドライン(CXG 102-2023)

#### 結論

- ・CCFICSにおいて作業を開始することとし、新規作業承認のためにCAC47に送付する。
- ・電子的作業部会を設置し、国の食品管理システム(NFCS)におけるデジタル化に関する上位文書となる原則案を作成する。  
(議長国:豪州、共同議長国:カナダ、ジャマイカ、オランダ及び英国)

9

FAO/WHO 合同食品規格計画  
第 44 回栄養・特殊用途食品部会

日時：2024 年 10 月 2 日（水）～ 6 日（日）

場所：ドレスデン（ドイツ）

議題

1	議題の採択
2	コーデックス総会及び各部会からの付託事項
3	FAO/WHO から提起された関心事項
4	6 ～36 か月 齢児の栄養参照量
5	いくつかの食品添加物の技術的正当性
6	優先付けメカニズム/新たな課題と新規作業
7	CCNFSDU の範囲内のテキストのレビュー
8	乳児用調製乳等に用いるフルクタン、 $\beta$ -カロテン及びリコピンに関する討議文書
9	フォローアップフォーミュラにおける炭水化物源の甘味の評価に関する討議文書
10	その他の事項及び今後の作業
11	次回会合の日程及び開催地
12	報告書の採択

※9 月 30 日（月）10 月 1 日（火）に議題 4 及び議題 6 に関する物理的作業部会を開催。

FAO/WHO 合同食品規格計画  
第 44 回コーデックス栄養・特殊用途食品部会（CCNFSDU）報告書

### 1. 日時及び場所

日時：2024 年 10 月 2 日（水）～10 月 6 日（日）

（9 月 30 日（月）、10 月 1 日（火）に物理的作業部会が開催された。）

場所：ドレスデン（ドイツ）

### 2. 参加国及び国際機関

51 加盟国、1 加盟機関（EU）、29 オブザーバー機関

### 3. 議長及び共同議長

Martine Püster 氏（ドイツ連邦消費者保護・食品安全庁）

Carolyn Bendadani 博士（ドイツ連邦消費者保護・食品安全庁）

### 4. 我が国からの出席

消費者庁食品表示課保健表示室	課長補佐	斎藤 雅文
消費者安全課国際食品室	室長	矢船 順也
消費者安全課国際食品室	主査	高橋 健

テクニカルアドバイザー

東京農業大学総合研究所	参与・客員教授	石見 佳子
国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所	国立健康・栄養研究所	
食品保健機能研究センター	食品分析・表示研究室長	竹林 純

### 5. 概要

#### 議題 1：議題の採択

議題案のとおり議題を採択するとともに、議題 10 の分析方法に関する提案について会期中作業部会を設置することで合意した。

#### 議題 2：コーデックス総会及び各部会からの付託事項

コーデックス事務局より、2022 年と 2023 年に実施したコーデックス文書の使用とインパクトに関する調査について追加の情報提供がされた。「必須栄養素の食品への添加に関するコーデックス一般原則（CXG 9-1987）」はコーデックス文書の中でも使用等がされていないことが示唆されたため、その有効性等を理解するために調査への参加の重要性が強調等がされた。

CCNFSDU より、コーデックス戦略計画 2026-2031 の目標と成果に関するステートメントの草案について、参加国等が回付文書（CL）2024/83-CAC に回答し、コーデックス戦略計画 2026-2031 に関する議論に積極的に参加するよう推奨等がされた。

その他、議題 5 に食品添加物部会（CCFA）からの付託事項および議題 10 に分析・サンプル

リング法部会（CCMAS）から付託事項があった。

### **議題 3：FAO/WHO から提起された関心事項**

FAO より、「植物由来およびその他の代替たんぱく質源から作られた食品および飲料の栄養成分に関する一般原則を含むガイドライン」を 2024 年末に公表予定であること、食品と農業の企業統計データベースである FAOSTAT に「食品と食事」ドメインを立ち上げるものの情報提供等がされた。

WHO より、出生から 3 歳までの乳幼児のカルシウム、ビタミン D 及び亜鉛の栄養摂取量の更新作業が終了し、2025 年後半に公開予定であること、第 43 回部会（2023 年）以降に 4 つのガイドライン（総脂肪の摂取、飽和脂肪酸及びトランス脂肪酸の摂取、炭水化物の摂取、砂糖以外の甘味料の使用）が発表されたこと、3 つのガイドライン（低ナトリウム塩代替品の使用、多価不飽和脂肪の摂取、パーム油・やし油の消費）が作成中であること、2 つのガイドライン（動物性食品の最適な摂取、“超加工”食品の消費）が作業初期であるものの情報提供等がされた。

### **議題 4：6～36 か月齢児の栄養参照量**

#### **議題 4. 1：6～36 か月齢児の栄養参照量の設定に関する一般原則（ステップ 7）**

#### **議題 4. 2：6～36 か月齢児の栄養参照量（ステップ 4）**

（経緯）

第 37 回部会（2015 年）から、年長乳児（6～12 か月）及び年少幼児（12～36 か月）の栄養参照量（NRVs-R）を設定するために議論している。第 43 回部会（2023 年）では、① 6～36 か月齢児の NRVs-R の設定に関する一般原則、② 一般原則の適用に関する試験的な段階的アプローチについて議論し、アイルランドを議長国、コスタリカ及び米国を共同議長国とする電子的作業部会（EWG）を設置し、一般原則案の修正を踏まえた試験的な段階的アプローチ案の見直し及び 2 つの年齢区分を組み合わせた値を開発すること、修正した試験的な段階的アプローチ案を適用し、他の栄養素の NRVs-R の算出することで合意した。

（主な議論）

＜AI（目安量）の定義＞

FAO/WHO が提供した AI の定義を採用することで合意した。

＜NRVs-R を組み合わせる方法（2 つの年齢区分を組み合わせた値では平均値を用いる方法等）＞

部会前日に開催された物理的作業部会（PWG）において、段階的アプローチ案を一部修正するとともに、NRVs-R 策定のための方法論について議論した。アメリカ、中国等は、組み合わせた値により高い値を用いる方法、EU 等はより低い値を用いる方法を採用すべき等の意見が各国からあった。我が国からは 2 つの年齢区分を組み合わせた値では平均値を用いること支持する旨を発言し、最終的には、NRVs-R を組み合わせる方法としては、過剰摂取や摂取不足の危険性を避けることができる理由等から平均値を用いる方法を採用



用することに合意した。

#### ＜NRVs-R の具体的な値＞

FAO 報告書に収載されたビタミン A、B6、D、及び E、並びにチアミン、リボフラビン、ナイアシン、パントテン酸、カルシウム、銅、ヨウ素、カリウム、亜鉛、及びたんぱく質の NRVs-R について、日本人の食事摂取基準に基づいて 2020 年版の値に更新した上で、合意した。ビタミン B12 やマグネシウム等については引き続き議論することとなった。

#### （結論）

第 44 回部会（2024 年）は、次の事項に合意した。

- i. 年長乳児及び年少幼児の NRVs-R の設定に関する一般原則（AI の定義及び NRVs-R を組み合わせる方法を含む）について、ステップ 8 に進めて、第 47 回総会で採択し、栄養表示に関するガイドライン（CXG 2-1985）に含めること
- ii. ビタミン A、B6、D、及び E、並びにチアミン、リボフラビン、ナイアシン、パントテン酸、カルシウム、銅、ヨウ素、カリウム、亜鉛、及びたんぱく質の NRVs-R について、ステップ 8 に進めて、第 47 回総会で採択し、栄養表示に関するガイドライン（CXG 2-1985）に含めること
- iii. 段階的アプローチに関する文書をコーデックスの Web サイトにて公表するようコーデックス事務局に要請すること
- iv. ビタミン C、B12、及び K、並びに葉酸、ビオチン、セレン、マンガン、マグネシウム、リン、及び鉄の NRVs-R をステップ 2/3 に戻し、アイルランドが議長を務め、米国とコスタリカを共同議長とする EWG を通じて段階的アプローチを使用して、各栄養素の NRVs-R を策定すること。その際に、日本人の食事摂取基準（2020 年版）に基づき NRVs-R を更新することを EWG に要請すること
- v. 作業期限を 2026 年に延長する必要があることを執行委員会及び総会に知らせること
- vi. 次回部会前に PWG を開催し、改訂提案の準備作業等をする可能性があること

### 議題 5：いくつかの食品添加物の技術的正当性

#### （経緯）

第 38 回部会（2016 年）から、FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議（JECFA）による評価のための食品添加物の優先リストに載せることを目的とした食品添加物の技術的正当性を評価するためのメカニズムや枠組みを議論している。第 43 回部会（2023 年）では、①国際特殊用途食品産業会（International Special Dietary Foods Industries：ISDI）から提示された低アシル化精製ジェランガム（INS 418）、アスコルビン酸パルミチン酸エステル（INS 304）、ミックストコフェロール（INS 307b）及びリン酸塩類（INS 339(i)、339(ii)、339(iii)、INS 340(i)、340(ii)、340(iii)) の技術的正当性、及び②食品添加物の技術的正当性を見直すための計画案について議論し、EU を議長とする EWG を設置し、バッチ 2 の食品添加物の安全性評価に関する情報収集をすること、乳児用調製乳規格（CXS 72-1981）で使用するための技術的正当性を検討するためのフレームワークを使用した情報収集をすること、得られた情報の評価及び次回部会への勧告の提

出することで合意した。

(主な議論)

<いくつかの食品添加物の技術的正当性>

乳児用調製乳規格 (CXS 72-1981) に適合する食品において、グアーガム (INS 412)、リン酸二デンプン (INS 1412)、リン酸モノエステル化リン酸架橋デンプン (INS 1413)、アセチル化リン酸架橋デンプン (INS 1414)、ヒドロキシプロピルデンプン (INS 1440) の 5 つの食品添加物が現在の製品に使用されていないことが確認され、乳児用調製乳規格 (CXS 72-1981) に準拠した製品にこれらの添加物の技術的正当性の評価は必要ないとの EWG の結論が支持された。

<第 53 回 CCFA から付託された事項>

乳児及び幼児用の特別用途食品に使用する栄養成分に関するアドバイザーリスト (CXG 10-1979) のパート D は、缶詰ベビーフードとシリアルベースの乳幼児用加工食品を区別せずに、乳児および幼児向けの調理済み食品に使用できる 5 つの食品添加物が含まれている。その一方で、食品添加物の一般規格では、「缶詰ベビーフード規格 (CXS 73-1981) に準拠する製品は除外する旨」が記載されているため、当該案件が CCCFA より、付託された。

検討の結果、缶詰ベビーフード規格 (CXS 73-1981) において、乳児及び幼児用の特別用途食品に使用する栄養成分に関するアドバイザーリスト (CXG 10-1979) のパート D に記載されている食品添加物を栄養キャリアとして使用することが許可されていることを CCFA に通知することが支持された。また、5 つの添加物のうち 4 つ (アラビアガム (INS 414)、非結晶質二酸化ケイ素 (INS 551)、マンニトール (INS 421)、及びアスコルビン酸ナトリウム (INS 301)) が 12 週齢未満の乳児向け食品での使用について JECFA によって評価されていないことから、技術的正当性の評価が必要であることが確認された。

<第 54 回 CCFA から付託された事項>

塩基性メタクリル酸共重合体 (BMC) (INS 1205) はビタミン A の劣化等を防ぐために重要であるため、技術的正当性を CCFA より付託された。ビタミン A 欠乏症は児の死亡率の重要な要素であり、特にアフリカやアジアにおける開発途上国における児の死亡率を考慮すると、緊急の取り組みが必要であり、技術的正当性を評価する必要性が支持された。

(結論)

第 44 回部会 (2024 年) は、次の事項に合意した。

- i. アラビアガム (INS 414)、非結晶質二酸化ケイ素 (INS 551)、マンニトール (INS 421)、及びアスコルビン酸ナトリウム (INS 301) を技術的正当性評価のための作業計画案のバッチ 6 に位置付けること
- ii. 乳児用調製乳規格 (CXS 72-1981) に準拠した食品にグアーガム (INS 412)、リン酸二デンプン (INS 1412)、リン酸モノエステル化リン酸架橋デンプン (INS 1413)、アセチルリン酸二デンプン (INS 1414)、ヒドロキシプロピルデンプン (INS 1440) を使用する技術

- 的な必要性がなかったことを CCFA に通知すること及び適切な対応を求めること
- iii. 缶詰ベビーフード規格 (CXS 73-1981) は、乳児及び幼児用の特別用途食品に使用する栄養成分に関するアドバイザーリスト (CXG 10-1979) のパート D に記載されている食品添加物を栄養キャリアとして使用の許可をしていることを CCFA に通知すること
- iv. 乳酸 (INS 270)、レシチン (INS 322i)、クエン酸及びクエン酸塩 (INS 330、331(i)、331(iii)、332(i)、332(ii))、脂肪酸のモノ及びジグリセリド (INS 471)、並びに BMC (INS 1205) の 12 週齢未満の乳児における安全性評価に向けての情報収集等した上で、技術的正当性について次回部会に勧告事項等を提出するための EU を議長とした EWG を設置すること

#### 議題 6：優先付けメカニズム/新たな課題と新規作業

##### 議題 6. 1：新規作業の同定及び優先付けのための予備評価のためのガイドライン

##### 議題 6. 2：新たな課題/新規作業のための提案

##### 議題 6. 21：食品及び食品サプリメントに用いる調和したプロバイオティクスのガイドラインの討議文書

(経緯)

第 40 回部会 (2018 年) において、CCNFSDU の作業が滞っていることから、第 75 回執行委員会 (2018 年) の要請に応じて、議長国のドイツが、これまでに完了した作業、部会で進められなかった作業、現在進行中の作業及び今後提起されそうな問題を整理した文書を作成し、当該部会の作業を優先順位付けする長期的な作業管理スキームを議論している。

第 43 回部会 (2023 年) では、優先順位付けガイドライン案とメンバー国から提出された作業提案を踏まえて、優先順位付けメカニズムを検討し、ガイドライン案について、判断基準の 1 つである健康への影響では、ポジティブな影響だけでなくネガティブな影響を考慮すべきであること、自己申告で各影響を評価するには課題があることについて議論したが、合意には至らなかった。また、第 43 回部会に提出された新規作業提案は、範囲が不明確なものが多かったため、範囲が明確であるかを決定木に追加することとなった。

また、①栄養表示に関するガイドライン (CXG 2-1985) に含まれる食物繊維の定義の修正作業 (カロリー・コントロール・カウンスル)、②食品及び食品サプリメントに用いる調和したプロバイオティクスのガイドライン (アルゼンチン、マレーシア及び中国) ③非動物由来たんぱく質から製造する食品の栄養組成に関する一般ガイドライン及び原則 (カナダ及び米国)、④年長乳児及び年少幼児向けの補完食に関する基準策定作業 (既存の 3 つの補完食に関する文書の更新・統合を含む) (米国) の 4 つの新規作業が提案された。

(主な議論)

<食品及び食品サプリメントに用いる調和したプロバイオティクスのガイドライン>

新規作業を支持する国もあったが、プロバイオティクスは一般的な健康上の利点があることを示唆する表現であることから、消費者を誤解させる可能性があることや作業の内容が不明瞭であることなどから反対する国もあった。提案が FAO 及び WHO のガイドラインに依存しているのであれば、策定されてから時間がたっているため見直す必要があること等の指摘があり、まずは FAO 及び WHO のガイドラインを更新することが提案された。

#### <非動物由来たんぱく質から製造する食品の栄養組成に関する一般ガイドライン及び原則>

部会前日に開催した PWG での議論を経て、提案から、細菌、昆虫及び真菌、並びに食品表示に関する検討を除外し、タイトルを「非動物由来」から「植物由来」に変更して提出された。また FAO は本件のレビューを実施しており、報告書は 2024 年末までに公表予定であることに言及があり、FAO の出版を待つことが提案された。

#### <年長乳児及び年少幼児向けの補完食に関する基準策定作業>

当該作業に缶詰ベビーフードやシリアルベースの乳幼児用加工食品が含まれているため、目的が明確になるようタイトルを変更する必要があるとの指摘から、提案のタイトルを「補完食」から「食品」に変更して提出された。提案について概ね支持が得られた。

#### (結論)

第 44 回部会（2024 年）は、次の事項に合意した。

- i. 優先順位付けガイドラインについて、新規作業提案の予備的な評価のために決定木を修正等し、ガイドライン案をコーデックスウェブサイトで公表するようコーデックス事務局に要請し、引き続き、新規作業提案の評価及び優先順位付けの際にガイドライン案を使用することなど
- ii. 栄養表示に関するガイドライン（CXG 2-1985）に含まれる食物繊維の定義の修正作業について、新規作業提案を棄却すること
- iii. FAO 及び WHO に対し、「食品中のプロバイオティクスの健康及び栄養学的特性（2001 年）」および「食品中のプロバイオティクスの評価に関するガイドライン（2002 年）」をレビューするよう要請した上で、新規作業提案を再検討することなど
- iv. 非動物由来たんぱく質から製造した食品の栄養組成に関する一般ガイドライン及び原則について、FAO の出版を待ち、見直すために、再度提案者に戻すことなど
- v. 年長乳児及び年少幼児向けの食品に関する基準策定作業について、新規作業として第 47 回総会に採択を諮ることなど

### 議題 7：CCNFSDU の範囲内のテキストのレビュー

#### (経緯)

第 43 回部会（2023 年）では、PWG から CCNFSDU に、他のコーデックス規格との関連性、一貫性及び最新の科学的根拠を担保するために、CCNFSDU の規格の点検を実施する



よう勧告があったことを踏まえて、コーデックス事務局が FAO/WHO の支援のもと、この作業に着手し、次回部会に報告することに合意した。

(主な議論)

①CCNSFDU の規格をレビューするために既存の手順を使用すること、②新規作業提案を求める回付文書に応じて、既存の規格の修正等を提案するようメンバー国に推奨すること、③乳児用調製乳規格 (CXS 72-1981) において特定された修正 (フォローアップフォーミュラ等規格 (CXS 156-1987) との整合を取るための修正) を第 47 回総会に検討および承認を要請すること、④CCNFSDU が開発した既存の規格を、仮議題 6 (優先付けメカニズム/新たな課題と新規作業) に含めるよう CCNFSDU 事務局に要請することについて議論した。

(結論)

第 44 回部会 (2024 年) は、次の事項に合意した。

- i. CCNSFDU の規格をレビューするために既存の手順を使用すること
- ii. 新規作業提案を求める CL に応じて、既存の規格の修正等を提案するようメンバー国 (及びオブザーバー) に推奨すること
- iii. CCNFSDU が策定した既存の規格を、優先付けメカニズム/新たな課題と新規作業に含めるよう CCNFSDU 事務局に要請すること
- iv. コーデックス事務局に、乳児用調製乳規格 (CXS 72-1981) で特定された修正を第 47 回総会で採択に諮るために提出するよう要請すること

## 議題 8 : 乳児用調製乳等に用いるフルクタン、β-カロテン及びリコピンに関する討議文書

(経緯)

第 43 回部会 (2023 年) では、乳児用調製乳におけるフルクタン、β-カロテン及びリコピンの分析方法に関する第 41 回 CCMAS (2021 年) からの要請に対し、これらの分析方法の提案を支持する理由を議論し、米国を議長国とする EWG を設置し、乳児用調製乳規格 (CXS 72-1981) における任意成分としてのフルクタン、β-カロテン、リコピンの利用を見直すこと、フルクタン、β-カロテン、リコピンの安全性と適合性に関する勧告を作成して次回部会に提出すること、次回部会での議論のための報告書を提出することで合意した。

(主な議論)

①β-カロテンについては、CCMAS に対して、タイプ II 法として 乳児用調製乳規格 (CXS 72-1981) で AOAC2016. 13 を承認するよう要請すること、②フルクタンについては、CCMAS に対して、タイプ II 法として乳児用調製乳規格 (CXS 72-1981) で AOAC2016. 14 を承認するよう要請すること、③リコピンについては、現時点で使用するための分析方法 AOAC2016. 13 を承認する根拠を決定できなかったことについて議論した。

加盟国等でこの方法について合意が得られなかったため、議長は、分析方法が分析・

サンプリング法規格（CXS 234-1999）に記載されなくても、乳児用調製乳に許容される成分は国レベルで決定することができること、部会の作業負荷を考慮した上で、分析方法が実際に必要かどうかを検討すべきであることに言及した。

（結論）

第 44 回部会（2024 年）は、次の事項に合意した。

- i. この議論を中止すること。
- ii.  $\beta$ -カロテン、フルクタン、リコピンの分析方法の承認要請を取り下げたことを CCMAS に通知すること
- iii. 明確な規定がある分析方法の提案のみを検討すること

### **議題 9：フォローアップフォーミュラにおける炭水化物源の甘味の評価に関する討議文書**

（経緯）

第 43 回部会（2023 年）では、「年少幼児向け製品」における炭水化物源の甘味を評価するための適切な分析方法を議論し、EU を議長国、スイスを共同議長国とする EWG を設置し、non-milk protein に基づく製品に関して、フォローアップフォーミュラ等規格（CXS 156-1987）のセクション B（年少幼児向け）の 3.1.3（c）脚注 6 に沿って、「年少幼児向け製品」の乳糖と比較した炭水化物源の甘味を評価するために CCMAS への付託事項とする方法を再検討し、必要に応じて勧告すること、次回部会での議論のための報告書を提出することで合意した。

（主な議論）

CCMAS に対して、分析・サンプリング法規格（CXS 234-1999）で ISO 5495 を承認するよう要請することについて議論した。加盟国等でこの方法について合意が得られなかったため、議長は、現時点では議論を中止し、新しい方法が提案された場合は CCNFSDU で検討すること、国際整合性のある方法がない場合であっても、ISO 5495 やその他の分析方法の使用が妨げられるわけではないことに言及した。

（結論）

第 44 回部会（2024 年）は、炭水化物源の甘味度を評価するための分析方法の検討を中止することに合意した。

### **議題 10：その他の事項及び今後の作業**

＜食物繊維の分析方法＞

食物繊維の分析方法については、AOAC 2011.25/AACC 32-50.01 の分析精度を改善した AOAC 2022.01/ICC 規格 191/AACC 32-61.01 が開発されている。米国は、AOAC 2022.01/ICC 規格 191/AACC 32-61.01 の目的は生理学的利点を評価することではなく、分子量によって食物繊維を可溶性と不溶性のカテゴリに分離することを容易にすることであることを説明した。新しい方法によって、食物繊維の国内定義または確立された基準に適合しない食物

繊維が捕捉される可能性に関する懸念を考慮して、栄養表示ガイドライン（CXG 2-1985）における食物繊維の定義を満たさないものは最終測定値から差し引く必要がある旨を脚注に追加することを勧告したが、EU 等が懸念を示したために、食物繊維の分析方法の脚注に「管轄当局が適切とみなす場合」という柔軟性のある文言を含めることに合意した。

（結論）

第 44 回部会（2024 年）は、CCMAS に次の事項を要請することに合意した。

- i. 食物繊維の分析方法に脚注を付した上で、食物繊維の分析方法のタイプ I 法として AOAC 2022.01/ICC 規格 191/AACC 32-61.01 を承認すること
- ii. AOAC 2011.25/AACC 32-50.01 の同条項における使用を取り消すこと

＜乳児用調製乳規格（CXS 72-1981）のセクション A 及びフォローアップフォーミュラ等規格（CXS 156-1987）のセクション A の分析方法＞

タイは、ヨウ素及びビタミン A の分析方法において現在の分析方法の廃止が提案されているが、多くの加盟国によって使用されているため、これらの分析方法を保持して再分類することを提案した。その一方で AOAC は、AOAC 992.24 は、ヨウ素の測定には適していないこと、CCMAS はこの実態を確認していることに言及した。

（結論）

第 44 回部会（2024 年）は、CCMAS に次の事項を要請することに合意した。

- i. 乳児用調製乳規格（CXS 72-1981）のセクション A 及びフォローアップフォーミュラ等規格（CXS 156-1987）のセクション A の栄養素の分析方法に関するタイプ II 法及びタイプ III 法の評価、（再）分類、取り消し及び承認することを承認すること
- ii. 現在、分析・サンプリング法規格（CXS 234-1999）に記載されているフォローアップフォーミュラの分析方法のうち、ヨウ素における AOAC 992.24 を再分類又は取り消すこと、ビタミン A における AOAC 974.29、AOAC 992.04、AOAC 992.06 を再分類又は取り消すこと、パントテン酸における AOAC 992.07 を再分類することを検討すること

＜粗タンパクの分析方法＞

（結論）

第 44 回部会（2024 年）は、フォローアップフォーミュラの粗タンパク質の測定方法をタイプ I 法として承認するよう CCMAS に要請することに合意した。

＜他の分析方法に関連した問題＞

議長は、CCNFSDU が、乳児用調製乳に関する分析方法の新規提案を頻繁に受け取っていること、この提案を検討するための具体的なメカニズムはなく、部会直前に議場配布文書が公開されるため、十分に議論できないことに言及した。そのため、分析・サンプリング法規格（CXS 234-1999）の特殊用途食品に関する分析方法を検討する EWG を設置し、分析

方法を議論するための体系的なアプローチを作成することを提案した。

（結論）

第 44 回部会（2024 年）は、米国を議長とする EWG を設置し、分析・サンプリング法規格（CXS 234-1999）の既存の分析方法を検討した上で、追加方法及び代替方法、その他の修正及び取り消しを提案することに合意した。

#### <窒素タンパク質換算係数>

窒素タンパク質換算係数が CCNFSDU の範囲内のテキストの複数の規格に記載があるため、その位置付けの在り方について CCMAS から当該案件が付託されたことが議題 2 で報告された。議長から、①規格内の窒素タンパク質換算係数を維持すること、又は②基準内の同係数を削除して代わりに分析・サンプリング法規格（CXS 234-1999）を参照することが提案された。

また、CCNFSDU は、CCMAS が作成した窒素タンパク質換算数のリストから、年長乳児用フォローアップフォーミュラ及び年少幼児用製品の窒素変換係数が抜けていることを指摘された。

（結論）

第 44 回部会（2024 年）は、次の事項に合意した。

- i. フォローアップフォーミュラ等の窒素タンパク質換算係数を分析・サンプリング法規格（CXS 234-1999）の窒素タンパク質換算係数を記載した付録に含めること
- ii. 乳児用調製乳規格（CXS 72-1981）及びフォローアップフォーミュラ等規格（CXS 156-1987）の窒素タンパク質換算係数を維持すべきかを次回部会で検討すること
- iii. CCMAS にその旨を通知すること

#### 議題 11：次回会合の日程及び開催地

第 45 回部会は、約 24 か月後に開催予定である旨が情報提供された。



### CCNFSDU の要約と作業状況

責任部局	目的	事項	コード	ステップ
第 87 回 CCEXEC 第 47 回 CAC	クリティカルレビュー 採択	6 ～36 か月齢児の NRVs-R の設定に関する一般原則	CXG 2-1985	8
		6 ～36 か月齢児の NRVs-R	CXG 2-1985	5/8
		乳児用調製乳規格 (CXS 72-1981) で特定された修正	CXS 72-1981	-
		フォローアップフォーミュラ等の窒素タンパク質換算係数を分析・サンプリング法規格 (CXS 234-1999) の窒素タンパク質換算係数を記載した付録に含めること	CXS 234-1999	-
第 87 回 CCEXEC 第 47 回 CAC EWG/PWG(米国、EU、ケニア、パナマ) 第 45 回 CCNFSDU	クリティカルレビュー 承認草案の検討	年長乳児及び年少幼児向けの食品に関する基準策定の新規作業	-	1, 2, 3
第 87 回 CCEXEC87/ コーデックス事務局	通知/公表	CCNFSDU における新規作業提案の評価及び優先順位付けのためのガイドライン	-	-
コーデックス事務局	公表	6 ～36 か月齢児の NRVs-R の設定に関する段階的アプローチ	-	-
CCMAS	承認/行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>分析・サンプリング法規格 (CXS 234-1999) における分析方法の承認</li> <li>分析・サンプリング法規格 (CXS 234-1999) に規定する分析方法の再分類及び取り消し</li> </ul>	CXS 234-1999	-
CCFA	通知/行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳児用調製乳規格 (CXS 72-1981) に準拠した食品にグアーガム (INS 412)、リン酸二デンプン (INS 1412)、リン酸モノエステル化リン酸架橋デンプン (INS 1413)、アセチルリン酸二デンプン (INS 1414)、ヒドロキシプロピルデンプン (INS 1440) を使用する技術的な必要性がなかったことを受けての適切な対応</li> <li>缶詰ベビーフード規格 (CXS 73-1981) は、乳児及び幼児用の特別用途食品に使用する栄養成分に関するアドバイザリーリスト (CXG 10-1979) のパート D に記載されている食品添加物を栄養キャリアとして使用の許可をしていること</li> <li>アラビアガム (INS 414)、非結晶質二酸化ケイ素 (INS 551)、マンニトール (INS 421)、及びア</li> </ul>	CXS 192-1995	-

		スコルビン酸ナトリウム (INS 301) を技術的正当性評価のための作業計画案のバッチ 6 に位置付けること		
EWG/PWG (アイルランド、コスタリカ、米国) 第 45 回 CCNFSDU	再編集	ビタミン C、B12、及び K、並びに葉酸、ビオチン、セレン、マンガン、マグネシウム、リン、及び鉄の NRVs-R	CXG 2-1985	2/3
EWG (EU) 第 45 回 CCNFSDU	レビュー	乳酸 (INS 270)、レシチン (INS 322i)、クエン酸及びクエン酸塩 (INS 330、331(i)、331(iii)、332(i)、332(ii))、脂肪酸のモノ及びジグリセリド (INS 471)、並びに BMC (INS 1205) の 12 週齢未満の乳児における安全性評価に向けての情報収集	CXS 192-1995	-
PWG (ドイツ、カナダ) 第 45 回 CCNFSDU	レビュー	第 45 回 CCNFSDU の検討のための新規作業提案の評価及び優先順位付け	-	-
EWG (米国) 第 45 回 CCNFSDU	レビュー	CCNFSDU の範囲内の基準における分析・サンプリング法規格 (CXS 234-1999) の分析方法	CXS 234-1999	-
FAO/WHO	フォローアップ	「食品中のプロバイオティクスの健康及び栄養学的特性 (2001 年)」および「食品中のプロバイオティクスの評価に関するガイドライン (2002 年)」のレビュー	-	-